

# わが国と南米との経済関係強化

外務省中南米局長

野口 泰

のぐち やすし



2024年は中南米イヤーである。ペルーがAPEC議長国を務め、ブラジルがG20議長国を務めるなど、中南米諸国が国際社会の議論をリードする立場にある。11月に向けて、すでに多くの閣僚クラスの会議が実施されており、これからも首脳レベルの会議が実施予定であり、わが国からも多くの要人が南米を訪問することが予定されている。

ブラジルをはじめとする南米諸国は、民主主義や法の支配など、日本と価値観や原則を共有する重要なパートナーであり、人口約4億4千万の巨大なマーケットを有する。また、資源や食料が豊富であるなど、経済安全保障の観点から不可欠なパートナーでもある。コロナパンデミックやロシアによるウクライナ侵略によって世界は食糧問題を抱えることになったが、国家間の紛争のない相対的に安定した南米は、わが国を含む多くの国にとって食料や資源の重要かつ安定的な供給源となっている。

本稿では、南米の中でも、アルゼンチン、ブラジル、パラグアイ、ウルグアイなどから構成されるメルコスールとの関係を中心に述べることにしたい。

## 岸田総理のブラジル・パラグアイ訪問

2024年、メルコスールとの関係で特筆されるべきは、5月3〜4日にかけて、岸田総理がブラジル、パラグアイを訪問したことである。ブラジリア半日、アスンシオン半日、サンパウロ約1日の慌ただしい日程であったが、大変充実した訪問であった。

ブラジルは2024年G20議長国であるほか、2025年は、COP30やBRICS首脳会議をホストするなど国際社会でリーダーシップを発揮しており、注目が集まっている。パラグアイは2024年上半期のメルコスール議長国を務める。こうした中で、岸田総理がブラジルおよびパラグアイを訪問することになった。

今回の総理訪問の狙いの一つとして、ブラジルとは資源・食料・バイオ燃料などのビジネス促進、パラグアイとは豊富な電力、競争力のある労働力、メルコスールのマーケットを活用したビジネス促進など経済面での関係強化があった。パラグアイがメルコスール議長国を務めていることもあり、メルコスールとの関係強化も狙いとしていた。

## 経済ミッションの同行

今回の総理訪問は、経団連をはじめとする経済ミッションに同行いただいたことによって、先方政府に効果的にアピールすることができた。特にブラジルには、脱炭素ビジネスに関心を寄せる企業が多く、46社の参加を得た。バイオエタノールからSAF（持続可能な航空燃料）を作るビジネスやバイオ原料から作るプラスチック代替素材など、ブラジルのポテンシャルに着目したビジネスに大きな関心が寄せられており、様々な分野での覚書

が署名された。また、パラグアイでも14社が参加し、宇宙分野をはじめとする様々な分野で覚書などが署名された。企業のトップを含む幹部の方に遠い南米までお越しいただいたことは大変ありがたく、オールジャパンで日本の存在感を示すことができたと考えている。

## メルコスールとの経済関係強化

メルコスールとの関係強化も総理訪問の重要なテーマであった。近年、ロシアによるウクライナ侵略など法の支配に基づく自由で開かれた国際秩序が深刻な挑戦を受けている中で、メルコスールなどのグローバルサウス諸国との関係を強化して、こうした国際秩序を維持・強化する必要性は高い。こうした問題

意識を踏まえ、2024年4月初めに、「第5回日・メルコスール経済関係緊密化のための対話」出席のため、筆者はメルコスール議長国であるパラグアイを訪問した。同対話は7年ぶりの開催であり、日本とメルコスール双方とも、経済関係を強化しようとの機運が高まっている。

かねて、経団連および様々な企業から熱心に日本メルコスールEPA交渉開始に関わる提言をいただいております。メルコスール各国からも同様の要望を提起されている。こうした提案に対して、韓国やEUがメルコスールとのFTA交渉で先行している中で、自動車産業を中心に競争条件が劣後することとなるなどの事情はあるものの、日本国内においては、メルコスールとの関係強化の方途につき様々な意見があり、いまだEPA交渉を始めるには至っていない。い



日・ブラジル首脳会談（ルーラ大統領〈右〉と岸田総理〈左〉）



日・ブラジル・ビジネスフォーラム

ずれにしても、貿易投資に関わる問題のみならず、メルコスールがリチウムなどの戦略的鉱物資源などの供給源であることなどからサプライチェーン強靱化

といった問題、大豆・トウモロコシなどの安定的な飼料確保の問題、GX分野の協力など幅広い分野において協力を強化することとしている。2024年11月にブラジル・リオデジャネイロで開催されるG20の場で、ブラジルなどとの首脳レベルの接触の可能性があるところ、岸田総理訪問のフォローアップをし

## 日本に対する南米諸国の期待

南米諸国は、現在、中国への経済的依存を高めている。ブラジルやペルーの輸出の3割は中国向けである。チリに至っては、輸出の4割近くが中国向けである。ブラジルのルーラ大統領は、岸田総理訪問前の日本のメディアに対するインタビューで、かつてと比べて日本とブラジルの貿易量が減少していることに懸念を示していた。こうした国々は、中国に経済的に依存するリスクを認識しているが故に、対外経済関係の多様化を志向している。伝統的な信頼できるパートナー国である日本には、南米での経済的プレゼンスを高めてほしいという思いを強く持っており、こうした期待に応えるためにも、またわが国企業自身のさらなる海外展開を促進するためにも、わが国政府と経団連を含む民間セクターが一体できれば幸いである。